

みどりみらい ぐんじとしのりの議会報告

2000/03/12 Vol. 26 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX
45-8362

E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

印西市議会/平成 12 年第 1 回定例会報告 (1)

3/1 (水曜日) に、代表質問に立ちました。

今回から 3 回程度に分けて、平成 12 年第 1 回定例会 (3 月議会) の報告を行って参ります。行き届かない点があると思いますが、ご意見等があればお寄せ下さい。

第 1 回目の今回は

- どうなる牧の原? どうする千葉ニュータウン ?

というテーマで報告をさせていただきます。

代表質問内容

3) 牧の原圏の将来について

あ)北口の開発は始まるようだが、人が住む南口への対応は?

(回答/市長) 牧の原駅圏の活性化については、市としても千葉ニュータウン事業の推進に係る重要課題であると認識しております。新住事業者では、商業施設等の誘致に努めているところではありますが、現在の厳しい社会・経済情勢から用地を取得して進出する企業は皆無に近い状況であり、このため牧の原駅圏の活性化の第一歩として、北側に暫定複合施設を整備することを計画していると聞いております。北側だけでなく、南側にも住民の利便施設等は必要であると考えておりますので、市としましても、新住事業者に働きかけを行って行きたいと思っております。

い) 都市計画に変更はないか。あれば周知されるのか?

(回答/市長) 千葉ニュータウン事業は着手して既に 30 年が経過しており、事業年度は平成 15 年一杯であり、その進捗率はおおむね 50%にとどまっております。

また、近年の宅地開発事業をめぐる社会経済情勢の変化、ならびに少子高齢化の進展により、ニュータウンでの住宅、宅地の需要動向に見合った現実的な見なおしにより、入居促進、立地促進による事業の早期完成を図って行く予定であります。尚、周知につきましては都市計画法の制度上での手続きに従い周知して行きたいと思っております。

(* 以上 / 回答は原文のまま。)

(牧の原の将来について)

今回行った会派代表質問の答弁は不十分であると感じたため、再質問、再々質問を通じ、以下のような、市政に対する提言を行いました。

- * 市民の声を聞いて、街づくりをしてほしい。例えば、市民参加のワークショップを開催し、行政と市民が同じ立場で発言し、印西市の将来を考えて欲しい。
- * 商業施設等の誘致に関しては、新住事業者(都市整備公団、千葉県企業庁)のみに任せるだけでなく、市が中心となって働きかけをすべきではないか。いつも同じところをお願いするのではなく自主的に動いて欲しい。

過去 4 回の定例議会において、毎回「牧の原圏の開発に対する質問」を行って参りました。しかし、毎回同じようなコメントで失望をしております。先日、開催されました千葉ニュータウン対策特別委員会においても進捗はございません。しかし、議会での質問を通じ、市政での牧の原駅圏に対する取り組みは変わってくるものと確信しております。(次回、6 月議会でも一般質問で行います。) 今後は更に密に関係各機関と協議し、皆様の利便性向上

に邁進してまいります。私に対しての、皆様からの要望は多岐にわたりますが、随時この紙面で紹介、報告をしております。） * 私も牧の原駅を利用する一人として、常に皆様と同じ立場で提言して行き、この地区の将来を考えていくことをお約束致します。

高校問題の現況について)

2月21日(月曜日)に高校問題対策協議会が開催され、今後の高校誘致問題に対する協議がなされました。その際に、私が所属する会派 まちづくり研究会(代表/松本隆志議員)が中心となり、現在開会中の千葉県議会に「高校新設の請願」を行おうということになり、自民党県議が紹介議員となり請願をいたしました。この請願は、2月県議会で審議され、可決すると考えますので今後の高校建設にむけて弾みがつくものと思います。

尚、3/1(水曜日)現在、集まっている署名は11518名(印西、白井、本埜、印旛 合計数)です。今後はこの署名を添えて県教育委員会に印西市が中心となって誘致活動を行っていくこととなります。

鉄道問題を考える(9)

日本経済新聞の記事より

今回は、日経新聞(2/24)の記事を皆様を紹介したいと思います。

(記事) (*注) 下線は、私、ぐんじとしのりが付したものです。

千葉県は、成田新高速鉄道の整備手法などについて関係機関と協議する調査検討委員会を今年度末を目処に設置する方針を決めた。成田新高速鉄道は、千葉ニュータウンを通る、北総・公団線を経て東京都心部と成田空港を結ぶ。成田空港の暫定滑走路の供用開始を2002年5月に控え、空港利用者の増加が見込まれるため、県は検討委員会で収支採算性などの調査を実施し、早期の事業着手を目指す考えだ。

調査検討委員会は県や県企業庁、都市基盤整備公団、北総開発鉄道などの千葉ニュータウンの関係機関と成田空港の関係機関などで構成する予定。空港関係では運輸省や新東京国際空港公団、京成電鉄やJR、成田空港に乗り入れる鉄道施設などを管理する成田空港高速鉄道などに参加を呼びかける。

沿線自治体の参加も予定。すでに成田市や船橋市など沿線9市町村で構成する「成田新高速鉄道促進期成同盟」に呼びかけており三自治体程度の参加を見込んでいる。

検討委員会の設置は成田新高速鉄道の複数の計画ルート案のうち「B案」と呼ばれるルートの早期事業化を狙う。B案ルートは北総・公団線印旛日本医大から成田市土屋を経て、成田空港と結ぶ19.1kmを予定。うち、成田市土屋 - 成田空港は鉄道施設が完成、JRの特急「成田エクスプレス」などが乗り入れている。未着工部分は北総・公団線印旛日本医大 - 土屋間(10.7km)で、検討委員会は同区間の建設費などを調査、事業主体の調整を急ぐ。同路線は先月の運輸政策審議会答申で「2015年までに完成することが適当」と位置付けられた。成田空港では暫定滑走路の建設が始まっており、完成後は同空港の年間発着枠が現在の年間12万8千回から19万3千回に拡大する。

空港に乗り入れる鉄道の需要が高まる反面、関係機関が多数に上り、調整が進まないことが懸念される為、県は来年度予算に調査費2000万円を計上し、検討委員会を設置することに決めた。 (以上 原文のまま。)

次回以降、運輸政策審議会が提言した事項の検証や北総公団線はどのようにあるべきかを皆様と考えて参りたいと思います。(皆様からのご意見やご連絡を心よりお待ちしております。)

* いつもご声援ありがとうございます。(次回は続いて、定例会の報告を中心に行って参ります。今後ともご支援、ご指導ください。宜しく願いいたします。)

